

第4回 自治体システムデータ連携標準検討会 議事概要

1. 日 時：令和元年12月13日（金）15:00～16:40

2. 場 所：総務省関東総合通信局 21 階会議室

3. 出席者等：

【構成員】

廣川構成員（座長）、浅見構成員、大高構成員、大山構成員、綱田構成員、長峯構成員、廣瀬構成員、山澤構成員、半田構成員、下山構成員、鶴田構成員（上田構成員代理）、川崎構成員、田口構成員、内藤構成員、奈良部構成員、原田構成員、藤井構成員、松尾構成員、松田構成員、森山構成員

【オブザーバー】

結城 総務省 自治行政局 地域政策課 地域情報政策室 係長（神門 地域情報政策室長代理）、正木 市町村課 行政経営支援室 課長補佐（植田 行政経営支援室長代理）、平本 政府CIO 上席補佐官、三木 政府CIO 補佐官

【事務局】

総務省 情報流通行政局 地域通信振興課 地方情報化推進室

4. 議事次第：

- （1）開会等
- （2）APPLIC 標準強化検討WG 報告書（案）について
- （3）GIS・防災・教育に係る標準化の取組
- （4）自治体データポータビリティ（マイデータ）の推進について
- （5）今後の進め方等について
- （6）閉会

5. 意見交換の概要

地域情報プラットフォーム標準仕様 総論

- 実装を目指した標準システムを作るためには、ベンダごと、自治体ごとに思想や機能が異なっているものこそ標準化していく必要がある。
- 標準仕様にするためのカスタマイズを防止する策を設けていただきたい。
- 標準化する範囲を議論する必要がある。地プラも団体の人口規模で絞った方が使えるものになる。

- 最小のデータセットを作ってカスタマイズする方針になっているようだが、いま世界はフルセットモデルを作ってから、抽出してサブセット化するのが主流である。
- 地プラのカスタマイズ事例については、ベンダを調査対象として、業務間の連携、必要な項目を聞くことが問題の解決に繋がる。
- 地プラの連携は完全ではないため、仕様を自治体に提示するということが調達において必須。
- 「地域標準プラットフォーム標準仕様に対する正しい理解」という表現は誤った認識がされているという印象を与えるため書き換えるべき。
- 実態とかけはなれた理想論を掲げては仕方ないので、地プラをどうやって使わせるのかという方向に持って行くことが重要。
- データの標準化は、これから出していく部分に視点をおいて検討していくのがよい。最近 A P P L I C からカスタマイズの事例を教えてほしいという依頼があったが、独自の連携をしているのでカスタマイズではないという回答をしている団体があった。
- マルチベンダを実現しようとするならばマルチベンダ化が進んでいる自治体に意見を聞く必要がある。
- 人口 10 万人～20 万人の団体を対象団体としているが、該当団体は全国でも 30% くらいのため、対象を見直していただきたい。
- 「データ項目不足は個々の自治体における業務機能や運用の差から生じるものがほとんどであり～」とあるが、これは「自治体における業務機能」ではなく、「パッケージにおける業務機能」のことではないか。
- 普段使用していないインターフェースを使用して地プラで連携しようとしたときに、新たなカスタマイズ経費が発生するということを懸念。
- マイナポータルの子育てワンストップサービスでは、設計上「区役所」の概念がないため、申請データを区ごとに仕分ける作業が必要になる。政令市向けに「区」の項目に配慮してほしい。

文字情報の標準化

- 内字について、地プラでの定義（JIS X 0213）と異なっている場合が多いため、実装するにあたってカスタマイズが必要になっている。
- 文字基盤の標準化についてはベンダロックインを解消するにあたって非常に重要。外字問題は 10 年以上議論されている課題のため、対応不要という選択肢はない。
- データ連携のニーズがないという書き方になっているが、標準仕様書推進にともなう複数自治体の共同利用などにより、今後、データ連携のニーズが変

わってこることも踏まえて検討いただきたい。

- 住基統一文字と旧規格の JIS X 0212 の扱いも合わせて考える必要がある。
 - IPAmj が自治体で抱えている問題を解決すると考えられるが、最近の自治体の調達では、仕様書への記載が少なくなっているように感じる。
- 本来、自治体が責任をもって仕様書を書くものだが、書き方が分からないため IPAmj と書けない。文字基盤についてのガイドラインなどを普及させればよいのでは。
- 文字について、戸籍や住民票というかたちで公称するものと、宛名として使える文字と二極化して管理してもいいのではないか。公称すべき文字と流通する文字とを分けるところまで踏み込むべき。
- ベンダがコストと工期が遅れると説明するので、自治体は標準化に取り組む意義を感じない。後押しするのは国しかない。
- ベンダ独自の文字体系があることが、標準化が進まない一因となっているのではないか。
- 文字の標準化はコストがかかるという誤解があるのではないか。
- 中間標準レイアウトについても、地プラとあわせて検討いただきたい。

GIS の標準化

- アドレスマッチングのための辞書の標準化は普及させていただきたい。

校務の情報化・標準化

- 業者の製品が標準に準拠しているという登録制度を設けていただきたい。
- GIS は地名辞典を作っただけでは運用できない。辞書側に情報を全部残せるのか、マッチングロジックで解決するのかというところに既存ベンダはリソースを投資しているが、それでも全然解決出来ないという状態。実データを基に実証をしてほしい。

以上